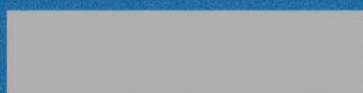


あなたのための
美術沼展



あなたのための

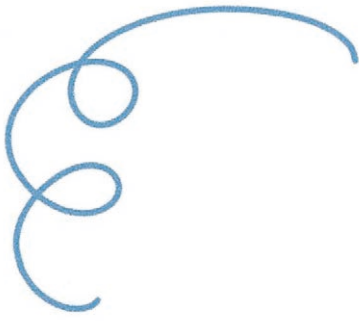
歌人の木下龍也さんに歌を依頼できる活動「あなたのための短歌」から着想を得た。

依頼して制作された短歌は、自分のものになる。自分の物語を歌にしてもらうことで、短歌を身近に捉えることのできる企画だ。美術も身近な存在であってほしい。「あなたのための」という言葉には、そういった思いを込めた。

美術沼 展

私の地元には、時代の中で失われていくカルチャーに注目する「文化沼」という取り組みがある。

この活動から、美術も「沼」と語ることで、触れやすくなるのでは？と考え、アニメ界限などではよく使われる「沼」という表現を使った。



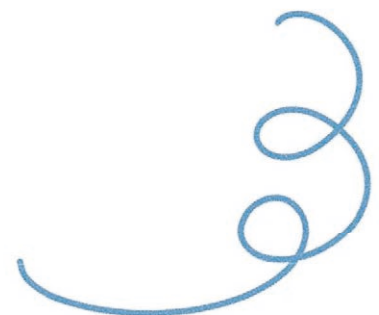
〈意図〉

「あなたのための美術沼展」は、さまざまな鑑賞方法に触れることで、多角的な視点で美術作品の鑑賞を楽しめる展示である。その中でも、「問う」という行為を起点とし、観るだけではなく、「こんなことが気になるのか」と、自分の知らなかった自分の考え方に出会うことを期待している。

美術に興味のある人はもちろん、あまり興味のない人が「自分ごと」として美術を楽しむきっかけになれば嬉しい。大人が楽しいと感じれば子どもも興味を持つきっかけとなるので、大きく「大人」を対象にした。

美術はよく「教養」だと言われることが多いように思う。美術の背景について知識のある人は美術館でも楽しめるだろう。しかし、あまり興味のない人にとっては難しいままだ。ただの教養では、鑑賞が興味深いものになっても、楽しいになることは少ない。この展示では、美術館を「主体的に問える場」として楽しめるようにしよう！という思いから、この企画に至った。

この企画は、「学ぶというよりは楽しむこと」、「美術館賞を能動的に行う面白さに気づくこと」の2つのテーマを軸とし、どちらも鑑賞者の主体性を重要視した。あわよくば“美術沼”にハマってほしい。



〈内容〉

展示場所 国立新美術館 企画展示室2E [東京・六本木]

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2

開催日時 2024年2月22日～5月16日

イベント ①対話型鑑賞のワークショップ（みんなで対話しながら鑑賞する）

イベントとして、平日に開催（イベントとして、白鳥さんを招待）

募集人数 10人ほどまで

②キャプションなし鑑賞会

ワークショップ型のこの展示の、解説文、ボードが全て消える。

何もない、作品だけの美術鑑賞

③しゃべれる美術館

喋りながら見るイベント（静かに鑑賞しなくてもいい）

月に一回、開館後or閉館後に開催（1人で来ても、誰かと来ても）

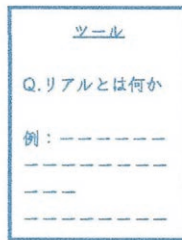
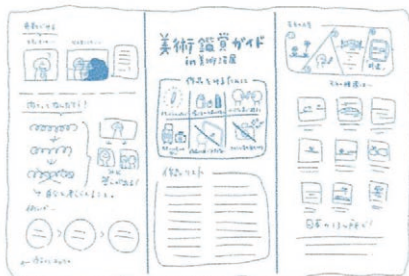
配布物 ①フロアマップ・作品ガイド（マンガ付き）

③大人のための問いリスト

④子ども用鑑賞ツール

⑤無料の音声ガイド（音声ツールも用意）

⑥メモ用紙の配布



①作品概要や問いが書かれている
美術鑑賞ガイドブック

②問いや楽しみ
方の小さな本

③スマホから聴ける
音声ガイド

④全員に紙と鉛筆
を配布

構成

1. 歴史はおもしろい
2. 歴史だけじゃない美術のおもしろさ
3. 美術を自分のものにする
4. 自分を美術のものにする
5. 言葉で美術を問うてみる言葉で美術を問うてみる

1.歴史はおもしろい

まずは、一般的な「歴史」を通して鑑賞し、自分の見方について知ってもらう。
唯一無二の作品が「芸術の価値」になりうると気づいてもらうために、同じ作品を2
回展示する。

ながれ

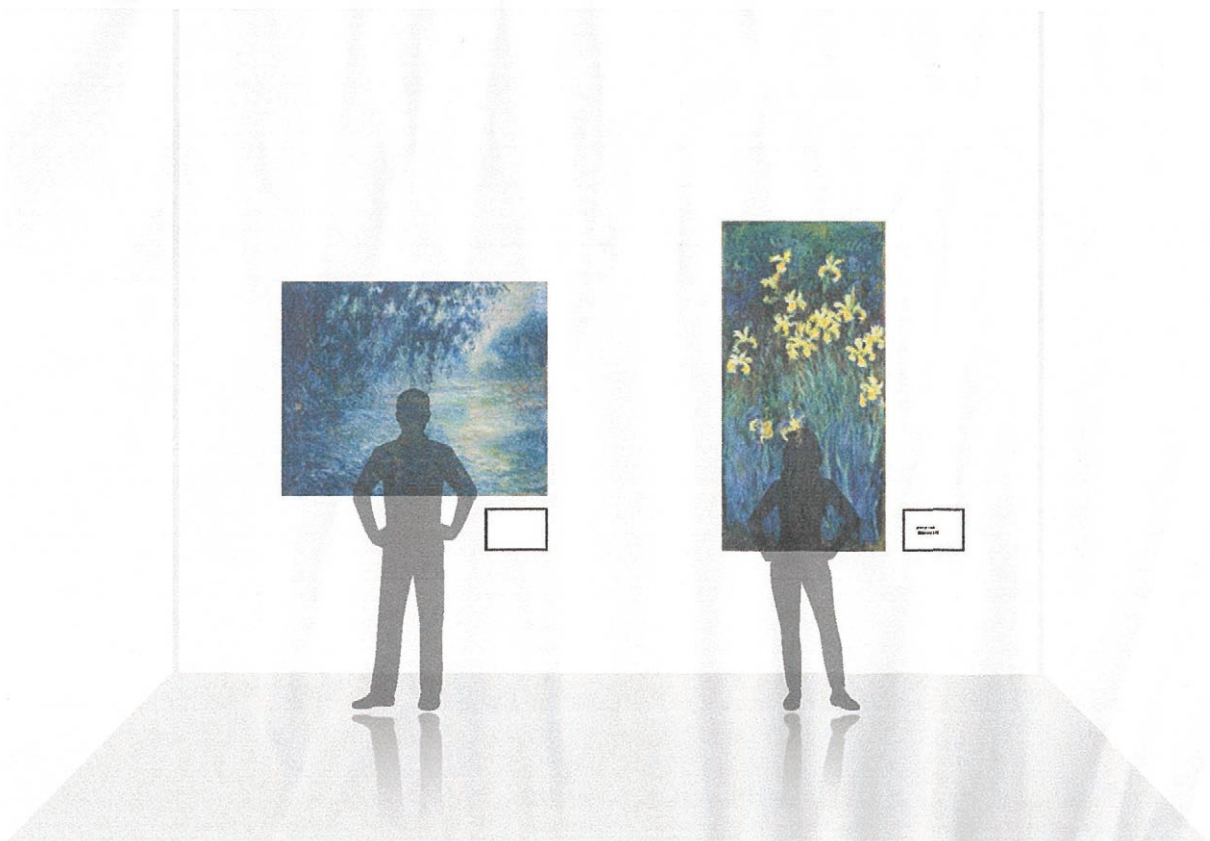
あいさつ、意図

解説文のない作品展示

展示例

例) クロード・モネ 《セーヌ河の朝》、《黄色いアイリス》

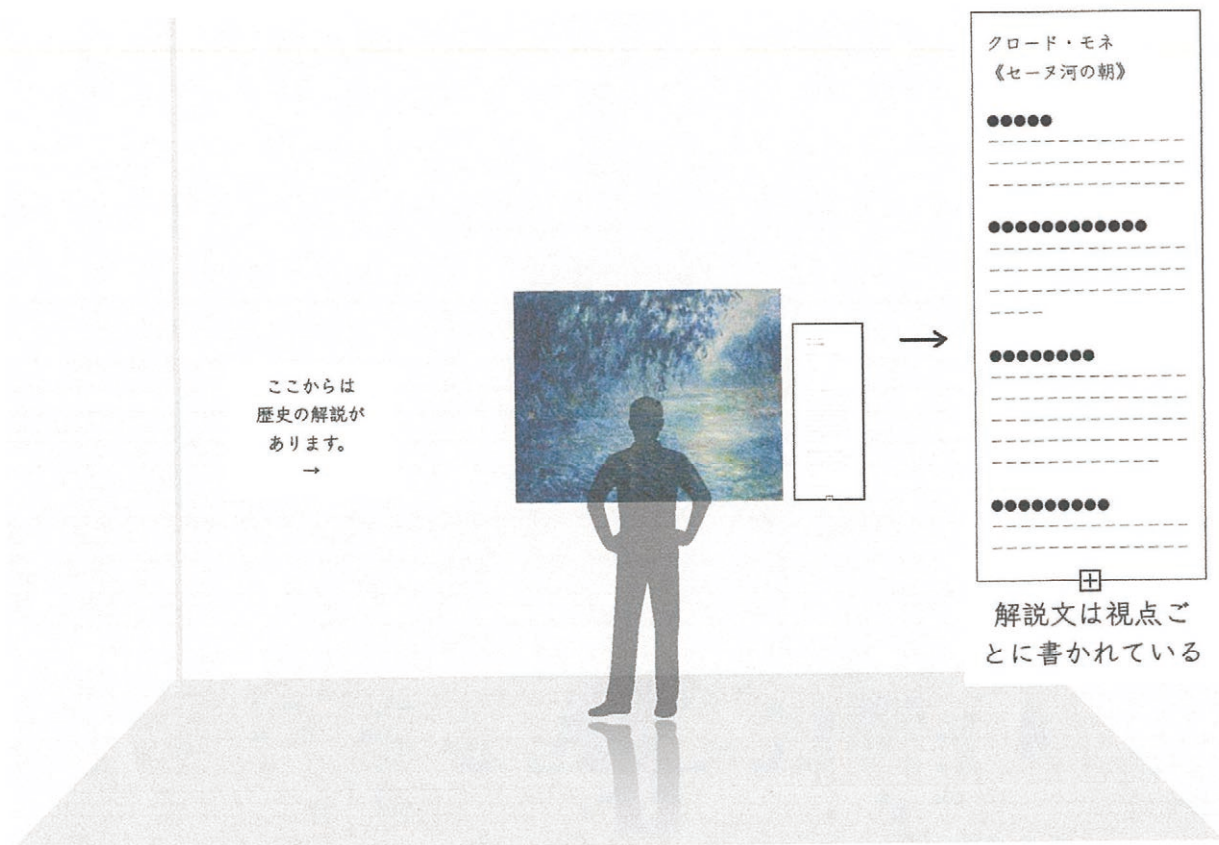
1.歴史なし（原画・歴史背景解説文なし、タイトルのみ）



※美術館内イメージ

歴史的背景のが書かれた解説文が添えられた作品展示
(「ここからは歴史の解説があります」のキャプションを挟んで10作品)

2.歴史あり (複製画・歴史背景解説文あり)



問いのパネル

書いてもいいし、みんなの考えや思いを読むだけでもいい。
掲示板みたいな「問いパネル」(QRコードも用意)

(どう考えた?、絵をどのくらい見てた?、偽物について考えることは?、
的背景を知ることによって同じ絵の見え方変化した?)

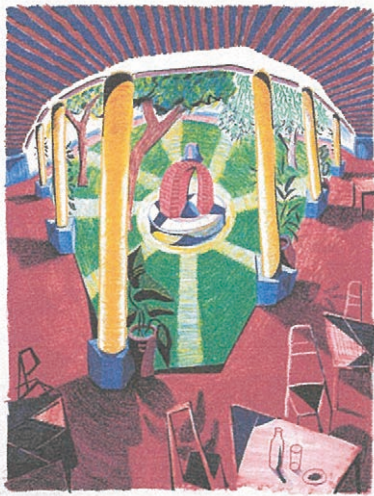
歴史を知る鑑賞もおもしろい! だけど、今日は自分の視点で見よう!
身近なものもアートになりうる。あなたの考えるアートとは?

2. 歴史だけじゃない美術のおもしろさ

歴史的背景以外から見た、さまざまな見方やジャンルの作品を紹介する。おわりに、「問いパネル」を設置する。

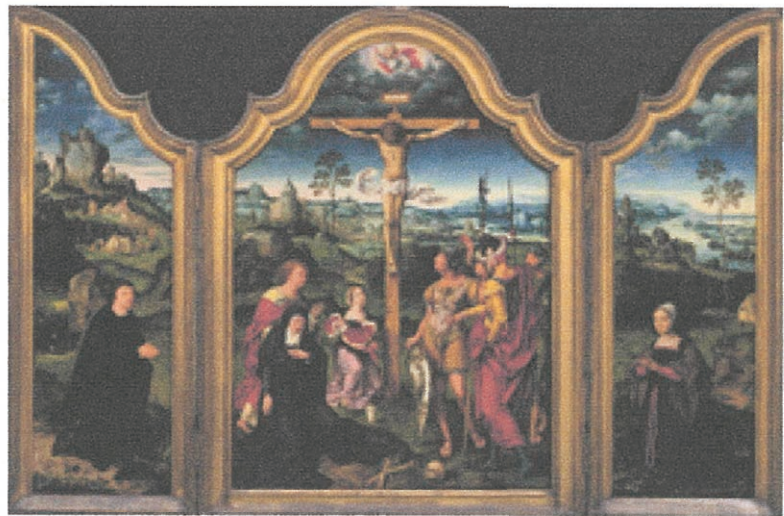
鑑賞方法と作品例

①色彩で見る



デイヴィッド・ホックニー
《ホテルの井戸の眺め III》

②歴史で見る



ヨース・ファン・クレーフエ
《三連祭壇画：キリスト磔刑》

③評価の有無で見る



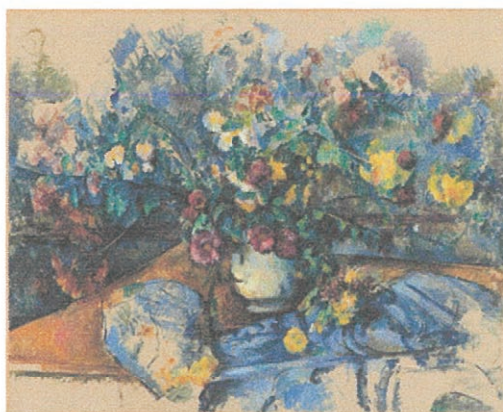
パブロ・ピカソ 《ラ・グループの海水浴場》

④描き方を見る



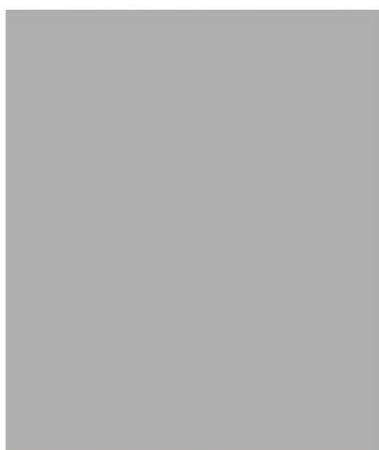
ゲルハルト・リヒター《抽象絵画〈赤〉》

⑤対象物を見る



セザンヌ・ポール《大きな花束》

⑥例えて見る



中園孔ニ《無題》



中園孔ニ《無題》

⑦対話して（話して）見る



ジョアン・ミロ《絵画》

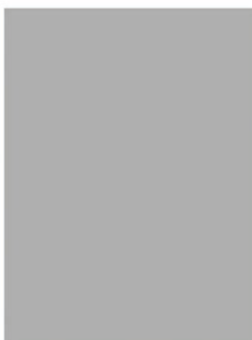
⑦お店さんごっこをして見る

（作品名をつけるなら？、部屋に飾るなら？）



フェリックス・ゴンザレス＝トレス
《無題（角のフォーチュンクッキー）》

⑧自ら作品になって見る



トーマス・ルフ
《室内》



リー・ミンウェイ
《ひろがる花園》



赤瀬川原平
左 《模型千円札Ⅰ》
右 《大日本零円札》

3. 美術を自分ものにする

さまざまな視点の作品、見方を知った後に、自ら問いをつくってみる。

問いのつくりかた

- ① なんとなく好きだなあ、惹かれるなあ、という作品に出会う
- ② 作者の意図も、タイトルも解説文も全て無視して、「何を感じるか」を考える
- ③ 5W2H (いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように、いくらで?) を考える
- ④ 「どこからそう思う?」、「そこからどう思う?」と、さらに追求する
- ⑤ 自分なりに作品に背景を作ってみる (飛ばしてもOK)

応用編：いろんな角度や距離で見してみる、同じ問いをいろんな作品に投げかける
気になったことや感じたことを書き出してみる

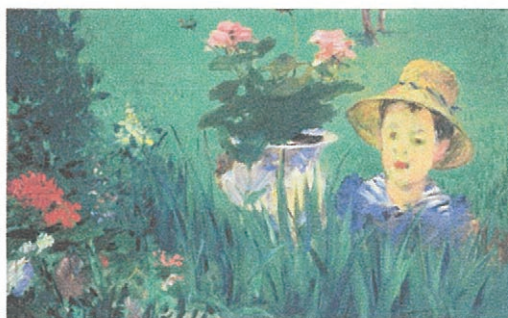
→あなたなりにどう見える? (全ての作品に答えを出さなくてもOK)
まだ分からなければ、“2”の見方に?をつけたり、視覚以外で見よう

作品展示 (タイトル、解説文などはない)

作品例 (身近なものから問いを作るために、有名な作家を例にした。)



ポール・シニャック
《サン＝トロペの港》



エドゥアール・マネ
《花の中の子供(ジャック・オシュデ)》



ピエール＝オーギュスト
ルノワール 《帽子の女》

問いのパネル

(1・2と同様、書き込み式。QRコードも用意)

問いをつくって見てみてどうだった?見え方は変化した?

例) 私だったら…「なぜ点で描く?」、「子どもの絵の構図は上から?」など

4. 自分を美術のものにする

つくった問いを、さらに自分に繋げ、自分に関する問いをつくる。ここでは自画像を通して、自分について見つめていく。

自分とつなげる

→生まれた問いの全てに「自分だったら」とつけてみよう！

例えば…

- 自分にとっての〇〇とは？（リアル、愛、描く、もやもやした思いなど）
- 自分が同じタイトルで描くならどんなふうを描く？
- 自分がこの芸術家の立場だったら？どんな追求をする？
- 自分は何に魅力を感じている？
- 自分がこの作品の中に入るならどんなものになる？
- 自分は何に価値を感じている？いくらだったら買う？
- 自分ってなんだろう（作品を通して考える）

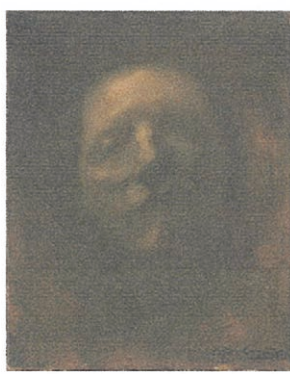
作品展示

（作品から自分の考えについて考える、芸術表現には全て「自分」がいること。）

作品例



イェルツイ・パネク
《白い帽子の自画像》



ウジェーヌ・カリエール
《自画像》



ジャン＝ジャック・エン
ネル《自画像（？）》



佐伯祐三
《自画像》

問いパネル

自分だったらどう表現する？、何を重視して作品をつくる？

5. 言葉で美術を問うてみる

視点・問い・自分から考えた美術とは何か、言葉で考えてみる。言葉で自分の心の動きを表現できてる？、美術って何？を問う展示。

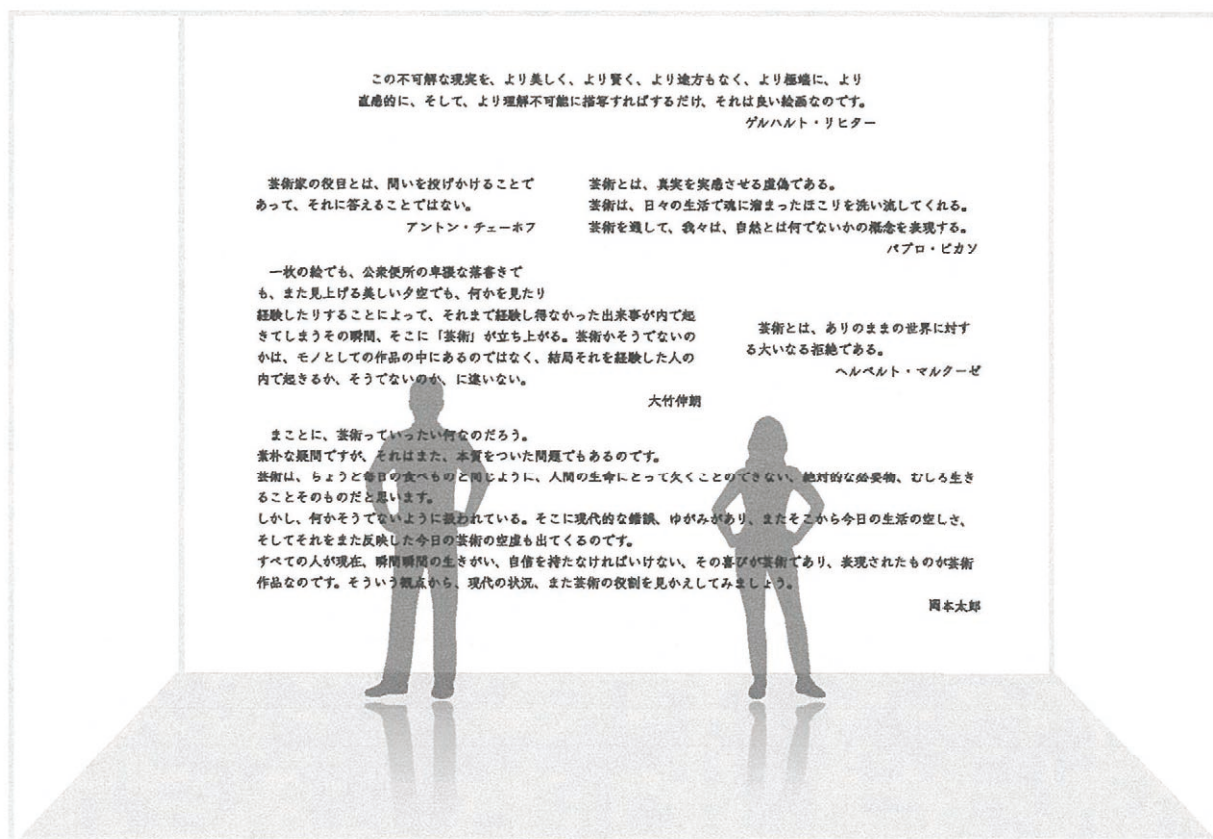
辞書的な「美術／アート／芸術／とは」の意味を提示

自分なりに「美術／アート／芸術／とは」を考える
(ボード付箋を貼ってもらう)

芸術家の「美術／アート／芸術／とは」の定義を知る
(原文・和訳文を壁に展示する)

展示・作品例

- ・大竹伸朗『見えない音、聴こえない絵』トースト絵画より一文
- ・岡本太郎『今日の芸術—時代を創造するものは誰か』より一文
- ・ディートマー・エルガー『評伝 ゲルハルト・リヒター』より一文



まとめ

定義が曖昧なものこそが、アートです！

一見、普通のものに見えるものも、芸術家がアートと決めたらアートになる。

つまり、アートはあなたの中にある！

アートという定義は言葉上はあるけれど、あまりにも曖昧です。だとしたら、あなた自身もアートになり得るのではないのでしょうか。

「アートとは何か」という漠然とした問いを“芸術家が一生をかけて、追求した”という視点でも鑑賞して見るのも面白いかもしれません。

ぜひ、さまざまな視点から作品を見てみて、時には聴いてみたり、触れるものは触ってみたり、問いをつくってみたりして、あなたなりに楽しんでみてください。

実際に同じ技法で作品を制作してみると、また見え方も変わってくるかもしれません。

何がアートで、アートじゃないのか。あなたはどうか定義しますか？

もう少し時間がある方は、もう一周どうぞ。今度は作品だけを見てみよう。

参考資料

- ・あなたのための短歌一首 | 木下龍也
- ・文化沼 | カルチャーショップ&スペース
- ・新国立美術館
- ・英語名言ドットコム | 「芸術」についての名言
- ・Views of Hotel Well III | Taguchi Art Collection
- ・国立西洋美術館
- ・東京都現代美術館
- ・東京国立近代美術館
- ・質を変えて拡散されるクッキーの山山。 檜山真有評 フェリックス・ゴンザレス＝トレス《無題（角のフォーチュンクッキー）》1990/2020 | 美術手帳Web
- ・「関係性」そのものが作品になる—「リー・ミンウェイとその関係展」アーティスト・トーク レポート | 森美術館

書籍

- ・『13歳からのアート思考』末永幸歩
- ・『見えない音、聴こえない絵』大竹伸朗
- ・『今日の芸術—時代を創造するものは誰か』岡本太郎
- ・『評伝 ゲルハルト・リヒター』ディートマー エルガー 訳：清水穰